

IHSS

Kinki Univ.

近畿大学

健康スポーツ教育センター研究紀要

第5巻 第1号

2006

〈特集 生涯スポーツと大学体育〉

大学教育としての体育のあり方	佐川 和則	1
からだの教育、こころの教育	津田 忠雄	7
大学生の健康観と体力	熊本 和正	21
フィットネスチェックについて	高島 規郎	25
米国における大学体育とスポーツの環境について	直井 愛里	27

〈私の授業〉

近畿大学通信教育部の健康スポーツ科学の授業の展開について	大島 寛	31
------------------------------	------	----

〈総説〉

Psychological Response to Sport Injury and Psychological Skills Interventions for Injured Athletes	Airi Naoi Heather R. Deaner	35
---	--------------------------------	----

〈原著論文〉

スポーツと自己物語		
— アスリートのドミナント・ストーリーについて —	津田 忠雄	49
エリートランナーの全身持久能力を測定するための トレッドミルを用いた ramp 負荷プロトコル	熊本 和正 佐川 和則	67

〈研究資料〉

柔道、レスリング、相撲競技者のルールと技からみた体型比較	岡田 龍司 高島 規郎 芦田 信之 東 照正	77
------------------------------	---------------------------------	----

〈集録〉

健康スポーツ教室公開講座について	岡田 龍司	89
活動記録		93

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程		97
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規		98
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規		98
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規		99

近畿大学健康スポーツ教育センター

近畿大学
健康スポーツ教育センター研究紀要
第5巻 第1号

2006

近畿大学健康スポーツ教育センター

目 次

〈特集 生涯スポーツと大学体育〉

大学教育としての体育のあり方について	佐川 和則	1
からだの教育、こころの教育	津田 忠雄	7
大学生の健康観と体力	熊本 和正	21
フィットネスチェックについて	高島 規郎	25
米国における大学体育とスポーツの環境について	直井 愛里	27

〈私の授業〉

近畿大学通信教育部の健康スポーツ科学の授業展開について	大島 寛	31
-----------------------------	------	----

〈総説〉

Psychological Response to Sport Injury and Psychological Skills Interventions for Injured Athletes	Airi Naoi Heather R. Deaner	35
---	--------------------------------	----

〈原著論文〉

スポーツと自己物語 ーアスリートのドミナント・ストーリーについてー	津田 忠雄	49
エリートランナーの全身持久能力を測定するための トレッドミルを用いた ramp 負荷プロトコル	熊本 和正 佐川 和則	67

〈研究資料〉

柔道、レスリング、相撲競技者のルールと技からみた体型比較	岡田 龍司 高島 規郎 芦田 信之 東 照正	77
------------------------------	---------------------------------	----

〈集録〉

健康スポーツ教室公開講座について	岡田 龍司	89
活動記録・研究・教育		93

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程		97
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規		98
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規		98
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規		99

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程

1. 本誌に寄稿できるのは近畿大学健康スポーツ教育センター専任教員に限る。但し、編集委員会が必要と認めた場合は専任教員以外にも寄稿を依頼することができる。
2. 寄稿内容は、体育学研究領域における総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起とし完結した未発表のものに限る。
3. 原稿掲載の時期は、編集委員会において決定する。
4. 本誌に掲載された原稿は原則として返却しない。
5. 原稿は 400 字詰、横書原稿用紙 A4 版にワープロまたはインク書きとし、本文はひらがな現代かなづかいとする。外国語をかな書きする場合はカタカナとする。
6. 原稿は原則として研究・教育上の問題提起などは図表を含めて上記原稿用紙 20 枚以内とし、総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告は 50 枚以内とする。
7. 図・表、原稿は必ず、A4 版以内の大きさとし、直接印刷原稿のとれるよう黒インクによりトレースするか、数表文字はタイプ打ち、または活字を使用すること。写真は白黒写とし、方眼紙は薄藍色のものを使用する。
8. 表・図・写真にはそれぞれ通し番号とタイトルをつけ、1 枚毎に台紙または原稿用紙にはり、本文とは別に番号順に一括する。また、必ず本文の図・表挿入箇所を赤インクにより指示すること。
9. 引用文献は、原則として、本文の最後に著者名を ABC 順に一括し、雑誌の場合には、著者名（発行年）論文名・誌名巻（号）：ページとし、単行本の場合は、著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は略）発行所：発行地、引用ページ（p. または pp.）の順に記載する。なお、引用および注記の仕方の詳細は、日本体育学会発行、体育学研究「投稿の手引き」を参照すること。
10. すべての原稿には表題、所属、氏名の欧文を必ず添付すること。但し、原著論文については 200 語以内の欧文抄録と、その和訳を添付すること。
11. 原稿はコピーを含め、合計 3 部と原稿がセーブされたフロッピーディスク 1 枚を提出すること。また、論文内容が主として関係する研究領域と論文の分類を明記すること。
12. 本文、そのほかに使用した欧文はすべてタイプ打ちか活字を使用すること。
13. 共著の場合には、著者名とその所属を明記すること。
14. 共著者として氏名を出すものは、その論文の全般にわたり責任をもって応答できる共同研究者に限る。
15. 本紀要に掲載された論文の著作権は、近畿大学健康スポーツセンターに譲渡したものとする。ただし、事前に申し出があれば、筆者自身が自分の論文を利用することができる。

16. 原稿は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会に提出すること。
 17. 本規程に反しているものは掲載しない。
 17. 本規程の改定に健康スポーツ教育はセンター会議の議決（過半数）を必要とする。
- 付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規

1. 健康スポーツ教育センター規程第7条により、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会（以下委員会）を置く。運営は本規程により行うものとする。
 2. 委員会は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要の〈英文名〉（The Research Bulletin of Health and Sport Sciences）の編集に関して次の任務にあたる。
 - (1) 編集発刊に関する一切の業務
 - (2) 寄稿された論文の審査依頼、原稿の分類および原稿掲載可否の決定
 - (3) その他、編集に関する事項
 3. 委員会は健康スポーツ教育センター会議により選出された委員若干名をもって構成する。委員の任期は2ヶ年とし、再任を妨げない。
 4. 委員会に委員長をおく。委員長は委員の互選により選出する。
 5. 論文審査のための論文査読委員は委員会の推薦により健康スポーツ教育センター長がこれを委嘱する。
 6. 論文の審査規程および編集に関する事項は委員会において別に定める。
 7. 委員会は査読担当者の評定に基づいて原稿の取捨を決定する。
 8. 委員会の召集、開催については委員長が行う。
 9. 本規程の改定には、健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。
- 付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規

1. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要は、年1回発行するものとし、その時期は3月1日とする。
 2. 本研究紀要に掲載する論文は原則として次の通りとする。
 - (1) 総説 (2) 原著論文 (3) 研究資料(報告) (4) 実践報告 (5) 研究・教育上の問題提起など
 3. 投稿者には別刷り50部を進呈する。
 4. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。
- 付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規

1. 本規程は、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会規程に基づくものとする。
2. 編集委員会に提出された原稿は、寄稿者の希望する研究領域を参考として、論文査読委員の審査を受けるものとする。
3. 寄稿者あるいは共同研究者は、その論文の審査員になることはできない。
4. 担当論文査読委員は寄稿論文が健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程に示された基準に沿っているか否かを検討し、掲載の適否を概要3段階によって評定し、その結果と根拠を編集委員長に報告する。
5. 論文審査の期間は原則として3週間以内とする。
6. 審査員が論文審査に困難を生じた場合には審査結果の報告書に次の事項を記入し、論文受領後1週間以内に編集委員に送付する。
 - (1) 困難な理由
 - (2) 他に論文査読委員として適当と思われる人
 - (3) その他の意見
7. 本規程は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集規程2.の総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起の審査に適用する。
8. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

編集後記

「生涯スポーツと大学体育」というテーマで特集を組みました。普段、私たちが問い続け、考えていることですが、言葉(文字)にすることは、なかなか難しいものです。身心は他者との関係の中で、常に変化し、変容し続けます。そのさまざまな諸活動、事象、様相を語り、言葉にすることは思いの外たいへんなことです。

ただ、生涯スポーツを選択した学生は、授業の中で、身体を動かすことの喜び、楽しみを真摯に語ってくれます。そしてその喜びや楽しみは、見知らぬ人との会話・交流という新たな出会いを演出し、相乗的な効果を生み出します。

大学での体育の役割は、よりよく生涯を生きるための「身体の教養」を身につけることに集約されるかも知れません。そのことがライフスキルの獲得にも連鎖することもあるでしょう。

私たちは、自他の<からだ>にふれること、自他の<からだ>とのコミュニケーションを通して、身体教育のあり方を真摯に問い続けます。

(津田忠雄)

執筆者紹介（目次順）

佐川和則 教授
津田忠雄 助教授
熊本和正 講師
高島規郎 教授
直井愛里 講師
大島寛 講師
岡田龍司 講師

編集委員会

委員 入川松博
佐川和則
熊本和正
高島規郎
津田忠雄（委員長）
（五十音順）

近畿大学健康スポーツ教育センター紀要 第5巻第1号 2006年
（通巻第5号）

平成18年3月31日 印刷

平成18年3月31日 発行

発行人 中本道昭

発行所 近畿大学健康スポーツ教育センター

577-8502 東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学 管理部 出版印刷課

KINKI UNIVERSITY

3-4-1 Kowakae, Higashiosaka-shi, 577-8502 Japan

The Research Bulletin of Health and Sports Sciences

Vol.5 No.1

CONTENTS

Special Reports : Lifelong sports and university physical education

Ideal way of physical education as university physical education	Kazunori Sagawa	1
Education of body and mind	Tadao Tsuda	7
University student's health outlook and physical education	Kazumasa Kumamoto	21
Fitness check test at Kinki University	Norio Takashima	25
The university physical education and the sports environment in the United States	Airi Naoi	27
The development of the health sports science class at Kinki University correspondence course	Hiroshi Oshima	31

Review

Psychological Response to Sport Injury and Psychological Skills Interventions for Injured Athletes	Airi Naoi	35
	Heather R. Deaner	

Original Investigations

Sports and Self-narration — A Study on an athletes dominant-story —	Tadao Tsuda	49
A ramp exercise protocol on a treadmill to determine aerobic endurance indexes for elite distance runners	Kazumasa Kumamoto Kazunori Sagawa	67

Research Materials

Comparisons of martial art wrestlers in their shapes	Ryuji Okada Norio Takashima Nobuyuki Ashida Terumasa Higashi	77
--	---	----

Material

The health and sports room open lecture	Ryuji Okada	89
---	-------------------	----

Activity Reports

2006

Institute of Health and Sports Science Kinki University

Osaka, Japan

特集「生涯スポーツと大学体育」

集 録

原著論文・著書・総説・研究資料など

2003年1月～2006年3月

区分	著者名	表題	掲載雑誌	巻	頁	年号
原著	津田忠雄	スポーツ選手の 「性格の二面性」について	近畿大学健康ス ポーツ教育センター 研究紀要	第2巻 第1号	27-40	2003
原著	Kumamoto K, Hirai T, Kishioka S, Iwahashi H	Identification of 1-ethoxyethyl radicals in the reaction of ferrous ions with serums from rats exposed to diethyl ether.	Toxicology Letters	154(3)	235-239	2004
原著	K. Kumamoto, T. Hirai, S. Kishioka and H. Iwahashi	Identification of a radical formed in the reaction mixtures of oxidized phosphatidylcholine with ferrous ions using HPLC-ESR and HPLC-ESR-MS.	Free Radical Research	39(9)	987-993	2005
原著	熊本和正 佐川和則	エリートランナーの全身持久力を測 定するためのトレッドミルを用いた ramp 負荷プロトコル	近畿大学健康ス ポーツ教育センター 研究紀要	第5巻 第1号	67-75	2006
総説	直井愛里	うつ病患者の運動療法	現代のエスプリー 身体活動・運動と 行動変容-		184-192	2006
報告	直井愛里	米国の大学の レクリエーションセンター	行動変容マニュアル 日本体育協会 Book House HD		100	2005
報告	直井愛里	うつ傾向の強い患者のための 運動継続のカウンセリング	行動変容マニュアル 日本体育協会 Book House HD		136-137	2005

学会または研究会 (主催、司会、座長、発表、演者、指定討論者、ワークショップ)

区分	著者名	演題	発表学会名	年月
発表	熊本和正、佐伯洋子、三浦恵子ほか	大学教員のライフスタイルと健康の実態に関する総合的研究(2)	大阪体育学会 第41回大会	2003年3月
発表	津田忠雄	スポーツ選手の性格の二面性について -心の相補性について-	大阪体育学会 第41回大会	2003年3月
発表	津田忠雄	心理的コンディショニングとしての儀式的行為の意義について	大阪体育学会専門 分科会	2003年10月
発表	Naoi, A. & Ostrow, A.	The effects of cognitive and relaxation interventions on injured athletes' mood, pain, optimism, and adherence to rehabilitation.	Association for the Advancement of Applied Sport Psychology	2003年10月
発表	熊本和正、平井富弘 岸岡史郎、岩橋秀夫	過酸化リン脂質より生成するフリーラジカルのHPLC-ESRおよびHPLC-ESR-MS法による構造決定	第26回日本フリー ラジカル学会学術 集会	2004年6月
発表	Watson II, J.C., Ayers, S.F., Zizzi, S.J., & Naoi, A.	Student recreation centers: A comparison of users and non-users on psychosocial variables.	Association for the Advancement of Applied Sport Psychology	2004年9月
発表	津田忠雄	スポーツ選手の性格の二面性	日本スポーツ心理 学会	2004年12月
発表	熊本和正、平井富弘 岸岡史郎、岩橋秀夫	ラット脳ホモジネートと2価鉄/アスコルビン酸との反応より生成するフリーラジカルのHPLC-ESRおよびHPLC-ESR-MS法による構造決定	第27回日本フリー ラジカル学会学術 集会	2005年6月
発表	津田忠雄	アスリートの心理的成長 -自己物語とライフスキルの獲得-	大阪体育学会専門 分科会	2005年5月
発表	Kumamoto K, Hirai T, Kishioka S, Iwahashi H	Identification of a radical formed in the reaction mixtures of oxidized phosphatidylcholine with ferrous ions using HPLC-ESR and HPLC-ESR-MS	EPR 2005	2005年9月
発表	直井愛里&Etzal, E.	米国のCHAMPS/ライフスキルプログラムについて	日本スポーツ心理 学会	2005年9月
発表	津田忠雄	語りと自己物語 -スポーツ選手のこころの成長と ライフスキルの獲得-	日本体育学会	2005年11月
シンポジウム	Naoi, A.	Conducting the applied research study at the college athletic training room.	Association for the Advancement of Applied Sport Psychology	2004年9月
シンポジウム	津田忠雄	アスリートのこころの成長・成熟について -物語論的アプローチから-	大阪体育学会スポ ーツ領域研究会	2006年2月

**学会または研究会
(主催、司会、座長、発表、演者、指定討論者、ワークショップ)**

区分	著者名	演題	発表学会名	年月
コーディネーター	津田忠雄	2006 ヴィクトリーサミット in OSAKA スポーツ選手のメンタルサポート	大阪体育協会	2006年3月
コーディネーター	津田忠雄	大阪体育学会 教育領域研究会に求められるもの -子どもたちの今から読み取る-	大阪体育学会教育領域研究会	2006年3月
ワークショップ	Zaichkowsky, L.D., 直井愛里荒木香織, & 大場ゆかり,	米国における心理的スキルトレーニングの進め方	日本スポーツ心理学会	2005年9月